

広島県地域公共交通ビジョンの策定状況について

令和5年3月

広島県交通対策担当

1 要旨

県全域を対象とした地域公共交通政策のマスタープランである「広島県地域公共交通ビジョン」（以下、「ビジョン」という。）の策定状況について報告する。

2 ビジョンの概要

(1) 計画期間

令和6年度～令和10年度（5年間）

(2) 策定に当たっての考え方

本県における公共交通の目指す姿とその実現に向けた施策の方向性を示すとともに、それに基づく県の施策やKPIを取りまとめる。

(3) 検討体制

広島県地域公共交通協議会

(4) 根拠法令

地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成19年法律第59号）

3 これまでの策定状況

(1) 協議会の開催状況

第1回(5/12)：協議会設立，今後の進め方

第2回(9/5)：公共交通の現状と課題，地域の類型化

第3回(12/1)：公共交通の目指す姿

第4回(3/20)：基本方針・施策の方向性

(2) 協議内容

別紙のとおり

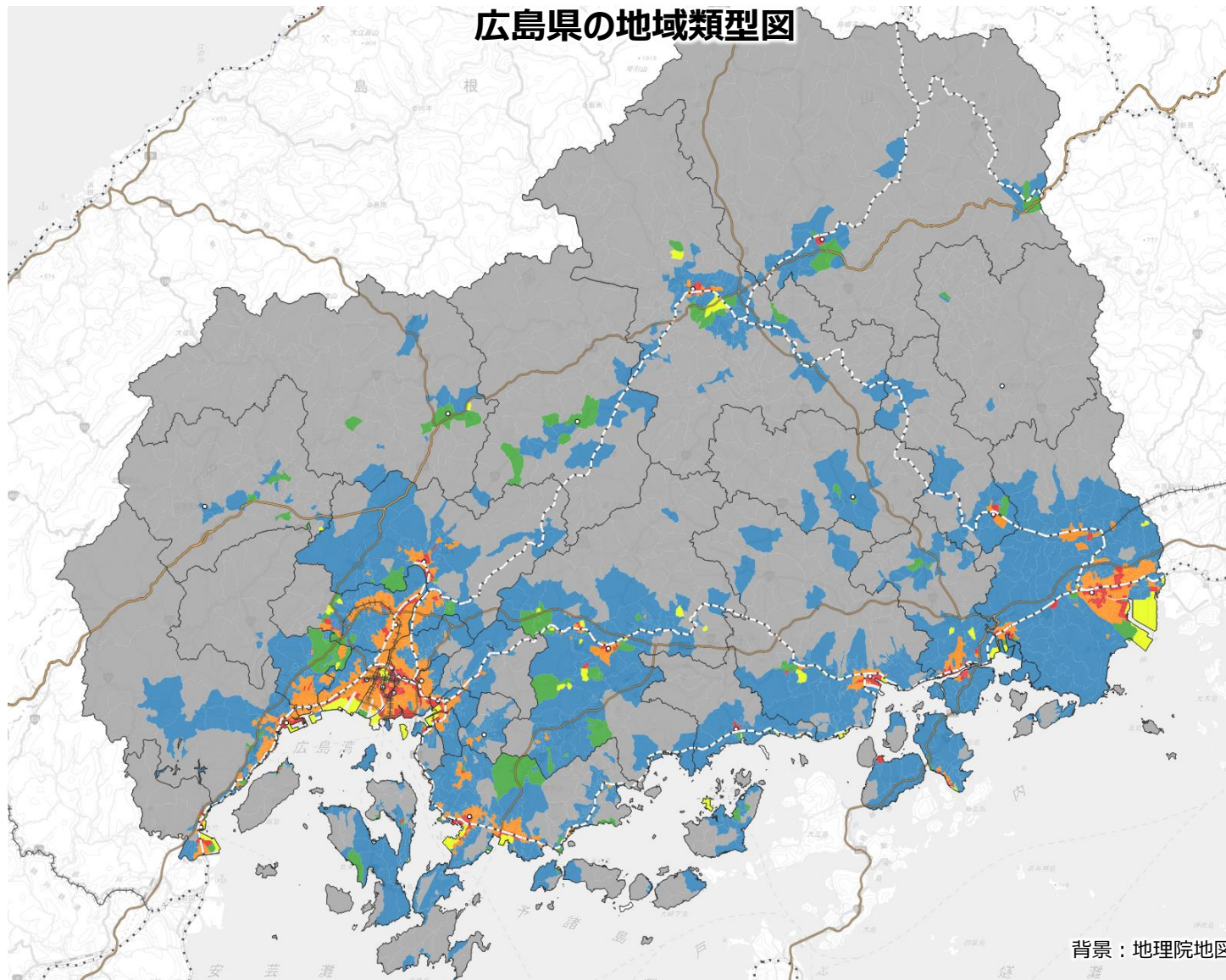
4 今後のスケジュール

令和5年度からは，市町，交通事業者，学識者，県で構成する分科会を新たに設置し，具体的な施策や成果指標について取りまとめ，令和5年度末のビジョン策定を目指す。

	令和4年度	令和5年度			
	3月	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
ビジョン	骨子案	素案(施策編)			最終案
広島県地域公共交通協議会	第4回(骨子案)	第5回(制度設計①)	第6回(制度設計②)	第7回(最終)	ビジョン策定
		↑ ↓ エリア分科会	↑ ↓ エリア分科会	↑ ↓ エリア分科会	
		↑ ↓ 市町交通会議	↑ ↓ 市町交通会議	↑ ↓ 市町交通会議	

広島，福山，呉市等の一部に「都市」拠点型，役場・駅・主要道路等の周辺に「地域」拠点型，それら拠点の周辺に住居型が展開されている。

広島県の地域類型図



- 【凡例】地域類型
- 都市拠点型
 - 都市住居型
 - 生産拠点型
 - 地域拠点型
 - 地域住居型
 - 移動需要分散型

背景：地理院地図

地域類型のイメージ

類型を想起させるワード

移動需要分散型

- ・山, 川, 海
- ・集落

地域住居型



- ・低密に立地する住居

地域拠点型



- ・町役場
- ・支所周辺
- ・病院
- ・道の駅

生産拠点型



- ・大規模工場
- ・工業地域

都市住居型



- ・マンション群
- ・住宅団地

- ・鉄道駅
- ・市役所
- ・マンション
- ・ホテル
- ・総合病院

都市拠点型



- ・高層ビル
- ・商業ビル
- ・タワーマンション
- ・新幹線駅

現状と課題を踏まえ、県全体の目指す姿を設定するとともに、県内を6つの地域類型に分類し、それぞれの移動特性に応じた目指す姿も設定。

県民の暮らしと、地域・経済の共創を支え、ひろしまの価値を高める 社会基盤としての地域公共交通の実現



県内交通の現状	課題	地域類型別の目指す姿	
<p>社会構造の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> □年齢階層別人口の構造的な変化 □高齢者単独世帯が今後も増加傾向 □移動需要はコロナ前まで回復しない 	<p>社会構造の変化による移動需要の減少</p>	<p>都市 拠点型</p>	<p>圏域全体の豊かな生活環境の創出に向けて、拠点内及び拠点間が相互に連携しながら最適な交通ネットワークで結ばれている。</p>
<p>移動困難者の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> □20年後には2人に1人が高齢者 □運転免許をもたない高齢者が大幅に増加 □移動をあきらめる・抑制されるといった潜在的な移動困難者が増加する可能性 	<p>顕在的・潜在的な移動困難者の増加</p>	<p>都市 住居型</p>	<p>多様な価値観やニーズを持つ様々な世代の人々が、大都市圏では得られないゆとりと安心を実感できるよう、都市と自然を自由に行き来できている。</p>
<p>苦境に立たされる交通関係者</p> <ul style="list-style-type: none"> □収益の悪化による負のスパイラル □交通事業者の人材不足が深刻化 □住民1人あたりの行政コストが増大 	<p>交通サービスの持続可能性</p>	<p>生産 拠点型</p>	<p>環境と経済・生活のどちらかではなく、どちらも追求する社会となるよう、地域や企業において公共交通の利用が促進されている。</p>
<p>公共交通が置かれている環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> □県民の環境意識の高まり □危機事案への柔軟かつ機動的対応 □官民の垣根を超えた地域共創型の交通 	<p>公共交通の位置づけの見直し</p>	<p>地域 拠点型</p>	<p>広域ネットワークと地域内の生活交通が整備され、生活の拠点としてだけでなく都市部へのアクセス性も向上している。</p>
		<p>地域 住居型</p>	<p>将来にわたって暮らし続けることができる生活環境を守るため、デジタル技術を活用した様々な交通サービスが効率的に提供される仕組みづくりが進んでいる。</p>
		<p>移動需要 分散型</p>	<p>新たな交通サービスの普及と地域の実情に応じた交通再編が進み、買物や通院等の日常生活の移動が確保されている。</p>

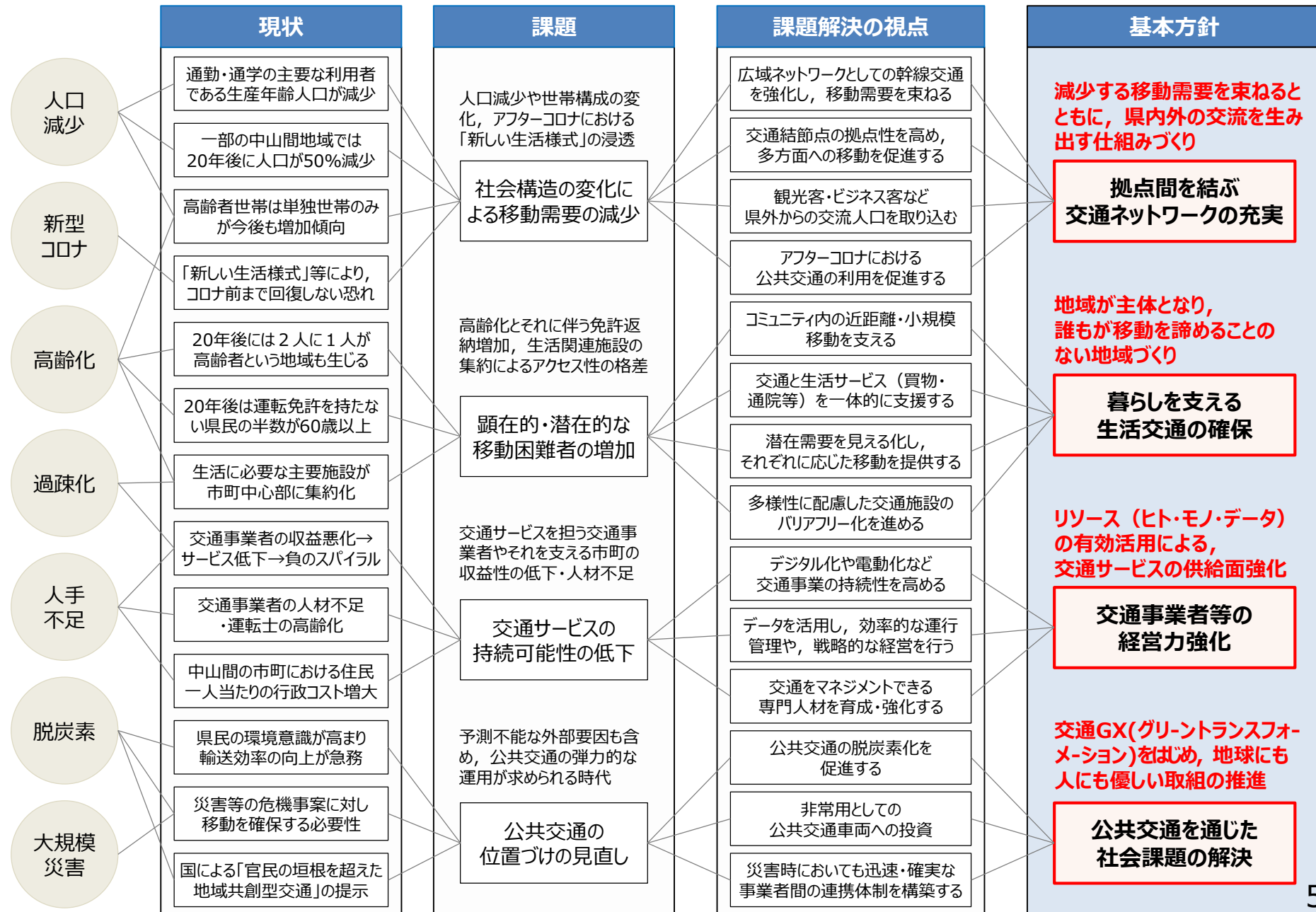
施策の方向性・具体施策

県民の暮らしと、地域・経済の共創を支え、ひろしまの価値を高める 社会基盤としての地域公共交通の実現

ことば	ことばの意味・込めた思い
県民の暮らし	通勤，通学，買い物，通院等， 守るべき県民の日常生活
地域・経済	交通×まちづくり，交通×ビジネス，交通×医療など， 分野の垣根をこえた地域公共交通のデザイン
共創	事業者・利用者・行政等，交通に関わる全ての関係者による， 地域公共交通の持続可能な再構築
ひろしまの価値を高める	豊かな暮らし や イノベーション に公共交通が貢献することで，広島県の価値を高める
社会基盤	公共交通を ベーシックインフラ としてしっかり支えていく

➡ 県が主体となって、事業者・利用者・市町等と連携しながら、公共交通を利便性，持続可能性，生産性，快適性が向上する形にリデザインし、「安心・誇り・挑戦 ひろしまビジョン」に掲げる**適散・適集社会**を目指す

基本方針



施策の方向性

基本方針に対応した施策の方向性と、関連性が強い地域類型を併せて次のとおり設定し、目指す姿の実現に向けて、県が主体となってマネジメントしていく。

基本方針	施策の方向性	都 拠	都 住	生 産	地 拠	地 住	分 散
<p>減少する移動需要を束ねるとともに、県内外の交流を生み出す仕組みづくり</p> <p>拠点間を結ぶ交通ネットワークの充実</p>	広域ネットワークの強化	●	●	●	●	●	
	交通結節点の拠点性の強化	●	●	●	●		
	新たな需要の獲得	●	●	●	●		
	生活様式に応じた利用促進	●	●	●	●	●	●
<p>地域が主体となり、誰もが移動を諦めることのない地域づくり</p> <p>暮らしを支える生活交通の確保</p>	コミュニティ内の移動の確保					●	●
	交通とまちづくりの一体化		●		●	●	●
	潜在需要の掘り起こし				●	●	●
	バリアフリー対策	●	●	●	●	●	●
<p>リソース（ヒト・モノ・データ）の有効活用による、交通サービスの供給面強化</p> <p>交通事業者等の経営力強化</p>	将来を見据えた設備投資	●	●	●	●	●	●
	交通データの利活用	●	●	●	●	●	●
	交通人材の育成・強化	●	●	●	●	●	●
	交通GXの推進	●	●	●	●	●	●
<p>交通GX(グリーン転換フォーメーション)をはじめ、地球にも人にも優しい取組の推進</p> <p>公共交通を通じた社会課題の解決</p>	交通レジリエンスの向上	●	●	●	●	●	●
	災害に強い連携体制	●	●	●	●	●	●